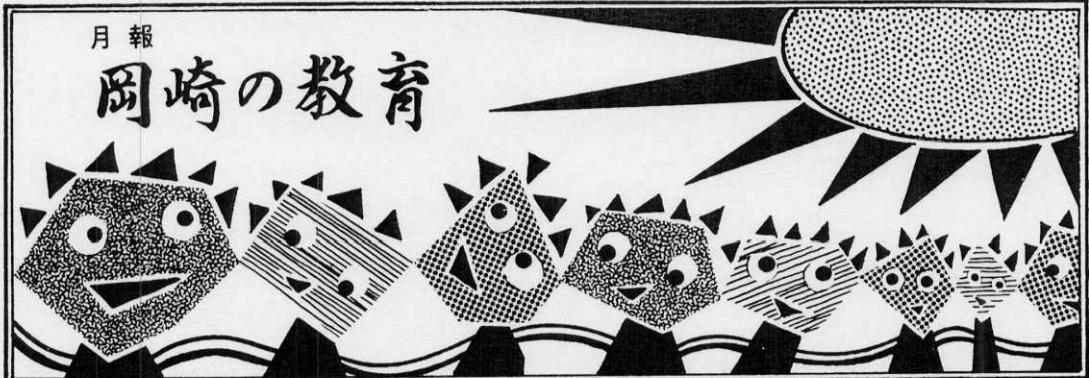


月報

岡崎の教育



2月号

昭和62年2月1日

発行 / 編集

岡崎市教育委員会

俺はピッチャー
ボールを投げる
一球 また一球
精魂こめて投げ続ける

時には めつた打ちに会い
マウンドに立ちつくし
苦しみ 悩み 考えぬく。
中学生のバッターに
直球だけでは通らない
カーブやホールも大切なのだ。

一球入魂
ピグマリオン
走りこみも十分だ
俺は今日も投げ続ける。

(ピグマリオン効果)

(一教師の反省記録より)



(寒げいこ 始め — 矢北中)

学園探訪

遊びを通して 健やかな子どもを



徳山 和子 梅園幼稚園長



藤井 つね 矢作幼稚園長



大内 滋子 広幡幼稚園長

「小中の交流をはかる」とか「中高一貫教育」というような言葉を我々はよく耳にする。ところが、学校教育の基盤を形成するともいえる幼児教育との関連についての論議は、前者ほど盛んでないようと思われる。

しかしほんどの子どもたちが保育園や幼稚園に通園するようになつてている現状を考えるならば、もっと幼児教育に光をあて、連携を深めていくべきではないかとの考えから市立の三つの幼稚園を訪れてみた。

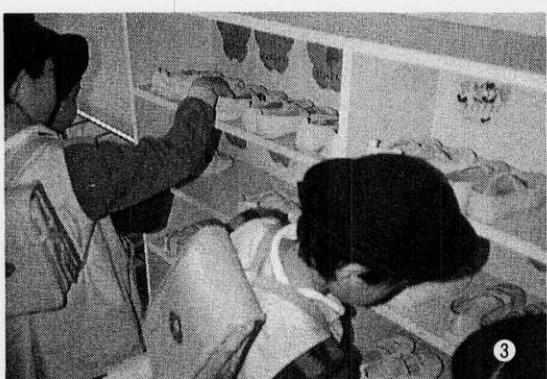
幼稚園は小・中学校の幼稚版で、ただ英語の授業の代わりに絵本を読んだり、紙芝居を見る時間があるぐらいの認識で訪れた私はその認識不足を痛感した。

幼稚園には教師が初めから割り付けた「遊びが子どもの生活のすべてである」との基本的な考え方で子どもの内側からの発達を支え、遊びを通して人格を育てるという姿勢が三つの園に共通している。

子どもたちは実に伸びのびとしている。単に自己の興味に従つて遊ぶのであるがでたらめな行動ではなく、自らを試し結果を検証しようとする行動がそこにある。



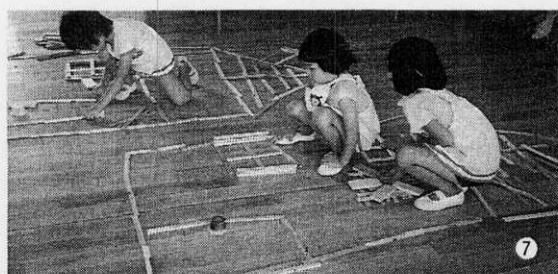
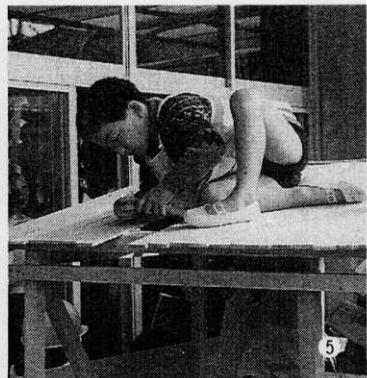
①



③



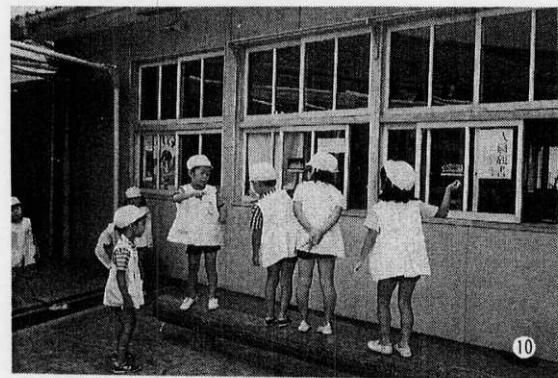
②



⑦



⑩

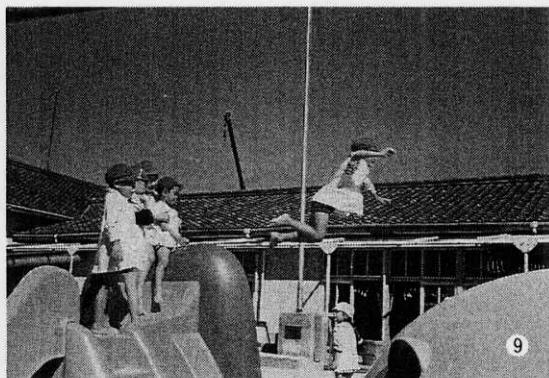


⑩

また遊びの中から何かを見つけ何かを創り、つねに何か指向しようとする行動がある。それは単なる知的な練習でもなければ、身体的な訓練でもない。それにもかかわらず、充実した遊びの中で子どもたちはさまざまことを知り、いろいろなことができるようになり、身体をきたえ、分別をわきまえていく。(遊びの過程は子どもの育ちの過程であり、学習の過程である。)と、それぞれの先生が控え目ながら子どもに対する愛情に満ちた眼差しで話して下さった。

① 「よく遊ぶ子は真に生活する子である」という。遊びの中で集団生活でのきまりを学ぶ。(梅園)
 ② 遊びのあとでの整理にも、知的パズルがあり、協力の姿勢が育っていく。(梅園)
 ③ 学校では、本は背表紙が見えるように棚に立てて楽しんで登園さえすれば、何も言わなくても見よう見まねで道徳性を身につけていく。(梅園)
 ④ ②の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑤ ③の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑥ ④の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑦ ⑤の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑧ ⑥の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑨ ⑦の姿勢が育っていく。(梅園)
 ⑩ ⑨の姿勢が育っていく。(梅園)

並べる。幼稚園では表紙の絵が見えるように並べて読書欲をそそるような工夫をする。(広幡)
 頭の中はすでに一流デザイナー!?(広幡)
 協力性と根気強さを育て、新しい発見の続く、夢の広がるマイホーム作り。(広幡)
 美的センスを磨き、創造性を育てるドレス作り。(広幡)
 「ここに、お窓があるといいね」と、話しながら「ここに、お窓があるといいね」と、話しながら「どんどん広がる創造力。(広幡)
 「たつかいぞおー」とおーくがみえるぞおー!」「ぼくだってとべるよおーと」冒險する心が自分の力を検証し、がんばりの精神を培っていく。(矢作)
 一本の丸太から新しい遊びが生まれる。ルールを決め、それを守る態度が育っていく。(矢作)



⑨

